

「脱原発」を考える市民講座・四日市



活動紹介

■活動場所

- ・四日市公害と環境未来館 活動室 ・中部地区市民センター等

■活動日、活動頻度等

活動は不定期です。2011年5月の発足以降、45回の講座を開催していますが、2021年度は予定の催しがコロナ禍で中止となり一度も開催できずじまいでした。2022年度は、ぜひとも、と考えております。

■活動内容など

- ・2011. 3～「3・11 甲状腺がん子ども基金」にカンパを送る。
- ・9月、小出裕章さん講演会（主催：脱原発四日市市民の集い主催）に共催として名を連ねるも、コロナ禍で中止となる。残念！でした。
- ・10月、子ども基金発行の報告集『原発事故から10年いま、当事者の声をきくー甲状腺がん 当事者アンケート105人の声ー』を購入し、周囲の友人に紹介し3人に購入してもらう。
- ・11月、東電原発事故刑事訴訟高裁の公判が始まり、東京高裁前の集会に参加。市民団体のミニコミ2誌にレポートを書いて報告する。
- ・2022年3月21日に、四日市市民公園で「さようなら原発三重パレード」に賛同団体として参加。地元団体として準備、運営に協力しています。
- ・4月に、久しぶりの講座を検討中。

代表者の想い

四日市公害裁判の原告側証人の一人だった宮本憲一さんの「福島原発事故は、史上最悪最大の公害である」という言葉と澤井余志郎さんの「行政と企業と市民は緊張関係を」の言葉を忘れずにとっております。昨夏は、近くの公園が草ぼうぼうで子どもたちが遊具に近づく事もためられる状態となっているのに気づき、たまりかねて市役所公園課に善処を要望したのですが、すぐには除草してもらえずじまいでした。「快適環境宣言」（95年）をしている都市にふさわしい街づくり、公園の美化除草等を市民の責任としても市に求めていきたいと思ひます。

PR

今年は、公害裁判原告勝利判決から50年の年です。市も幾つかの市民団体も記念の催しをされることかと思ひますが、当方も個人として発行の写真集『澤井さん野田さん同行二人』（博物館ミュージアムショップで販売中）の抜粋写真展ができないかと検討中です。



2011/11/2 東京高裁前での集会。マイクを持っているのは、6年前に四日市で講演をしていただいた武藤類子さん。



子ども基金